

2013年度「研究部会活動記録」

部会主任名	若田部 昌澄	現代政治経済研究所
研究課題：経済ジャーナリズムの研究：経済学とジャーナリズムの双方向的関係の構築に向けて		
月/日	活 動 記 録	
	今年度も研究会を中心に運営した。研究会の運営にあたっては次の3点に留意した。第一に、科学技術コミュニケーターにならい、経済学コミュニケーターの概念を構築すべく、エコノミスト、ジャーナリストに必要な知識の検討と科学技術コミュニケーションとの交流を図った。第二に、大学院経済学研究科経済ジャーナリズム・コースの「経済ジャーナリズム研究セミナーA」および「経済ジャーナリズム研究セミナーB（経済メディアの世界：ダイヤモンド社、東洋経済新報社提携講座）」と合同で運営し、大学院のカリキュラムおよび大学院生への教育波及効果を考慮した。第三に、歴史的視点を重視し、経済思想史とメディア史との交流を図った。	
	＜研究会＞	
4／25	原田泰（早稲田大学政治経済学術院教授） なぜジャーナリズムはTPPに賛成でリフレに反対なのか	
5／16	田中幹人（早稲田大学政治経済学術院准教授、（社）サイエンス・メディア・センター・リサーチ・マネージャー） 『科学コミュニケーション』を巡る議論の系譜	
5／23	西郷浩（早稲田大学政治経済学術院教授） ジャーナリストに必要な統計（学）の知識を考える	
6／6	片岡剛士（三菱UFJリサーチ&コンサルティング経済・社会政策部主任研究員） エコノミスト・ジャーナリストに必要な経済学とは何か（1）—アベノミクスを題材に考える—	
6／13	中村 理（早稲田大学政治経済学術院准教授、ジャーナリズムコース・プログラム・コーディネータ） アメリカの大学に見る科学技術ジャーナリストの養成カリキュラム	
6／28	山崎元（経済評論家、楽天証券経済研究所客員研究員、獨協大学経済学部特任教授、株式会社マイベンチマーク代表） 有用な金融ビジネス、悪用される経済理論	
7／4	鈴木亘（学習院大学経済学部教授、大阪市特別顧問（西成特区担当）） 経済学と行政、ジャーナリズムとのはざまで：西成特区構想を題材にして	
7／18	石村源生（北海道大学高等教育機能開発総合センター科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP)特任准教授） 北海道大学科学技術コミュニケーター養成プログラムにおけるカリキュラムデザインの理念と実装	
10／4	伊藤裕香子（朝日新聞社西部本社報道センター次長（経済担当）） 『消費税日記』をめぐる	

10/24	辻広雅文（株式会社ダイヤモンド社取締役雑誌編集局長） 週刊ダイヤモンドの編集企画：ミクロ経済の企画
11/7	辻広雅文（株式会社ダイヤモンド社取締役雑誌編集局長） 週刊ダイヤモンドの編集企画：企業レポートの勘所
11/14	小栗正嗣（株式会社ダイヤモンド社『週刊ダイヤモンド』編集長） 週刊ダイヤモンドの編集企画：編集長との対話
11/28	長谷川隆（「週刊東洋経済」編集長） 『週刊東洋経済』はこうして作られる：編集長との対話
12/5	田北浩章（東洋経済新報社取締役編集局長） 『週刊東洋経済』『会社四季報』の社会的意義とその歴史
12/12	山本隆行（「週刊東洋経済」編集部長、前『会社四季報』編集長） 『会社四季報』から見える証券市場の実際
12/14	Richard Smethurst（ピッツバーグ大学歴史学部名誉教授、慶應義塾大学客員教授） Takahashi Korekiyo and the Road to World War II William R. Garside（早稲田大学政治経済学術院教授） 'We Are All Keynesians Now': The Paradox of British Fiscal Policy in the Aftermath of the Global Financial Crisis, 2007-09
12/19	山崎豪敏（東洋経済新報社出版局長） 経済書はこうして作られる：書籍になる企画、ならない企画
1/9	筒井幹雄（東洋経済新報社企業情報部長） 企業担当記者はこうして取材する
1/16	佐々木紀彦（東洋経済新報社東経オンライン編集長） 経済系オンライン情報の可能性
2/25	Tiago Mata (Senior Research Associate, Department of History and Philosophy of Science, University of Cambridge)
2/27	Cultures of Expertise and the Public Interventions of Economists Tiago Mata (Senior Research Associate, Department of History and Philosophy of Science, University of Cambridge) The managerial ideal and business magazines in the Great Depression
来年度の活動計画	引続き、経済ジャーナリズムについての研究を行う。これまでジャーナリズムの研究といえ ば政治、社会、文化に限られてきたきらいがある。この部会では、これまで比較的未開拓で あった経済ジャーナリズムについて、多角的な研究を行う。第一に、経済学とジャーナリ ズムの双方向的な研究を目指したい。とくに日頃からメディアに発言し問題関心の高い経済学 者と第一線の経済ジャーナリストをお呼びして研究会を開催する。第二に、経済学とジャー ナリズムの相互交流の成果として何がありえるのかを具体的に現実経済に即して明らかに する。これは経済ジャーナリズム・コースとも連携しながら進める。第三に、理論的歴史的 展望を重視し、最近発展著しいメディアの経済学なども積極的に検討してみたい。 ① 第1年度 メディアで発言する経済学者、メディアを研究する経済学者、経済ジャーナリストなどによ る研究会の開催を主とする。研究会は原則公開とし、大学院生を中心とする学生の参加を 促す。

	② 第2年度 最終年度として、出版企画を進める。第1年度に引き続き、メディアで発言する第一線の経済学者、経済ジャーナリストなどによる研究会の開催を主とする。研究の成果をとりまとめる報告書の作成をする。
終了の場合	研究成果刊行の時期： 年 月（予定） 研究成果の公開方法：